

男小林遊々記 最近のはまりとちょっと刹那のお話。

前号で 残りの人生を楽しく生きる をテーマにしましたが、今回も楽しく趣味の旅行の話でも、思っただけのことですが、世の中がこんな状況で旅行には行けず、寂しい思いをしています。でもご安心を。そんな中でも負けない男小林。この状況下でも楽しむ方法を見つけました。泊まりがダメなら日帰りしかない。電車がダメなら車しかない。という事で、最近、日帰りドライブにはまっています。近いところでは県内。静岡には、まだまだ行った事のない場所が沢山あります(確かそうだね)少し足を伸ばして愛知、岐阜なんかにも行って来ました。岐阜だと妻籠宿とか郡上八幡にも行きました。今まで遠くて日帰りでは無理!みたいな固定観念があったのですが(あった!あった!!) 高速道路もあちこち整備されていて、意外と行けてしまうもんなんです。午前10時に出発して、夜の8時前には大体家に帰ってこれます。目的地はほぼ当日に決めて、混雑している都会は避け、田舎の城下町やら門前町なども狙って行きます。現地には2時間程度しか滞在できませんが、そこで美味しいものを食べたり、散歩して、行き帰りは道の駅とか気になったお店などに寄りながら、特産品を買ってきたりして楽しめます。人との接触はほとんど無く、密度を完全に回避しながら1日を楽しめます。ただ…(ただ?)往復の車中は奥さんと2人きりの時間が続いています(しまいますって何?嫌なの?)でも仲が良いので我慢できます(何?我慢で…?クソっ、うちのセリフだよ!!!) 先日行った日帰りドライブの中のちょっと刹那のお話です。いつものように行き先は当日決めました。かねてから行きたかった新潟の苗場スキー場にある「雪子荘」というホテル。さすがに新潟は無理かな~と思ったのですが、今は圏央道も開通して、とて早くなったんです。ナゼに苗場の雪子荘に?と言いますと、実は男小林がまだ青年小林だった頃、あれはまだ22歳くらいだったと思います。(何だか急に話が真剣モードになってきたね)仕事でつまづいて無職になった青年小林は、家でも周りでも居場所がなくなってしまい、と言うか、地元にいるのが嫌になってしまい、逃げるようにして苗場スキー場にあるホテルに住み込みアルバイトの仕事をしていたのでした。その時、大変お世話になったホテルの名前がホテル雪子荘。1月から4月までの4ヶ月間で、生まれて初めての地元を離れた生活で、見るもの全てが新鮮でした。アルバイト仲間は大学生が多く、そんな奴らと仕事を共にし、夜は酒も飲みかわし、バカな話をしながらの楽しいアルバイト生活で、高校しか出ていない青年小林は、短い期間ながらも、何となく大学生気分を味わうことが出来たのでした。そしてそんな楽しい日々もいよいよ終わりに近づいた時、オーナーの奥さんから、何故か気に入られ、この従業員にならないかと誘われたのでした。(ふーん初耳?)その時の青年小林は、実に優柔不断な対応で「それもいいですねえ」なんて思わせぶりな返事をしていました。でも美しい自然に魅入られ、オーナーからの熱心な誘いもあって「それもありがた〜」って思ったのも事実で、まんざら嘘ではありませんでした。そしてアルバイト期間が終了し、帰郷するときに「一度帰って、改めて考えてからお返事します。」と言い残し、苗場をあとにしたのでした。でも一度帰ってしまえば、もう戻ることはできなく、地元で再就職することに。母親から「また雪子荘の奥さんから電話あったよ。ちゃんと電話しなさい」と何度も言われたのですが、結局自分からは電話もせず、いいかげんな対応をしていました。そんなオーナーご夫妻に直接お会いして、お詫びをしたくて行き先を苗場にしましたのでした。(なるほどね。前置

きは異常に長いけど、思い出深いね…。)午後2時過ぎに現地到着。あのすく賑わっていた苗場の通りは畳んでしまったような寂やお店ばかりで、昔の面影は感じられませんでした。そして、目的の雪子荘はと言うと、昔あったカフェやレストラン、売店が入った建物が無くなっていて、奥に宿泊棟がひとつ残っているだけでした。寂れた通りと同様に、雪子荘も閉めてしまったのか?古い建物だから解体してしまったのか?とよく見る影もない状態で、オーナーご夫妻に会う事もなく帰ることにしました。何か自分の中で合わない方がいい、と直感したのです。そして帰りの車中、雪子荘をネットで検索していた奥さんから衝撃の一言が「雪子荘って2年前に火災で燃えちゃったんだって」…その愕然とした時の男小林の本心は「もっと早く来れば良かった…」でした。もう何年も前から行きたいとは思っていました。その時に行っておけば…後悔の念が頭から離れませんでした。これからは、行きたいとき、会いたい時に会いに行かなきゃダメ!と改めて思い知らされました。会えなければ、せめて手紙でも…。自分が歳をとっていくのと同時に、お世話になった人や恩人も歳をとっていくのですから…。苗場にもまた会いたいと思つた時には勇気を振り絞って必ず会いに行きたいと思つています。

そんなちょっとセンチな男小林遊々記でした。



今回も最後までお読みいただき、ありがとうございます。今年はコロナ、コロナで新聞・テレビ・インターネットでもその話題ばかり。私もうんざりしていますが、皆さんもきっとそうではないでしょうか。なので、今回の新聞ではなるべくその話には出さないように考えて書かせていただきました。楽しんでいただくつもりが、男小林のコーナーではちょっとセンチな部分も、昔の自分を出すのは少し恥ずかしかったです。こんな時代になりましたが、色々な出会いや発見もありました。今後どうなっていくのか、わかりませんが、工房西ふじとしては、ある仕事に感謝し、前も向いて頑張っていくしかないと考えてます。そうそう、報告することがあります。この春から社員として、小林祐介君が入社しました。皆さんの所へご挨拶にお伺いしたからなのですが、この騒ぎの影響で自粛してきました。この先伺える機会がありまければ、顔をお見せしに行きますのでその時には何か声を掛けていただけると幸いです。現在は、何故か我が家の三男坊も加わり、3人で頑張っています。(これもコロナの影響か)そんなこんなで工房西ふじですが、今後も変わらず頑張っていきますので、皆さん応援してくださいね。冬号は遅れないように努力します。(毎回そんな事言ってるよ!!) それまで皆さん、お元気で。



提案型建築工房
工房西ふじ
 〒418-0056 富士宮市西町10-15
 TEL: 0544-25-6263
 インスタグラム 更新中!! 「工房西ふじ」でポチッ